



大 口 高 校



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

大口高校だより

中学生 一日体験入学

7月31日、中学3年生を対象とした一日体験入学を開催したところ、大口中央中と菱刈中をはじめ、宮之城中、祁答院中、横川中、栗野中などから多くの生徒が参加してくれました。

写真は、ESS（英会話クラブ）の生徒が中心になって行った英語の授業と部活動体験（手前：バスケット、奥：バドミントン）の様子。



PTA親子 ふれあい清掃

8月18日、PTA主催の親子ふれあい清掃が行われました。朝7時から生徒・保護者、そして教職員合わせて136人がボランティアで参加してくれました。

ある父親は、「子供といろいろ話をしながら一緒に汗をかき、充実した時間でした。」と感想を話してくださいました。



グレードアップゼミ

8月5日・6日、鹿児島県教育委員会主催のグレードアップゼミが鹿児島中央高校を会場に開催され、本校からも2年生11人が参加しました。（うち1人はリモートで参加）。

なお、地理の授業は本校の嶽釜先生が講師を務め、気候と風土についての授業を提供しました。



野球部OBからボール寄贈

5年ぶりに復活した大口高校野球部を応援しようと、同部OB有志が試合球や練習球合わせて8ダースを寄贈してくださいました。

ボールを受け取った野球部員の福元君と佐土原君は、「先輩方の熱い思いに応えられるよう、一生懸命練習します」と答えていました。



あなたのそばで 県議会

8月17日、菱刈環境改善センターで、「あなたのそばで県議会」が開催され、生徒会役員の6人が参加し、「人口減少と地域活性化」や「熱中症対策」などについて質問しました。

質問をした矢嶋空さん、林竜輝君、堀ノ内咲良さんはその後TVのインタビューにも答え、「緊張しましたが貴重な経験をさせてもらいました」とコメントしていました。



単車実技講習会

7月24日、大口自動車学校で実施した単車実技講習会に19人が参加しました。

さつま町から単車通学している有村瑠菜さんは、「今日学んだことを踏まえ、常に危険を想定しながら、安全運転に努めたい」と感想を述べてくれました。



夏祭りで口高生大活躍!

伊佐の夏は各地で夏祭りが盛んで、大口高校生もボランティアや出店など大活躍でした。

7月27日の伊佐市夏祭りでは池ノ上奈槻さんが横断幕を持ってパレードの先頭を歩きました。

校区夏祭りでは、羽月校区、山野校区、曾木校区の夏祭りでブースを出して、「大口高校米（マイ）クッキー」などを販売しました。暑い中、大口高校の存在を大いにPRしてくれた生徒の皆さん、お疲れ様でした。



学校PR横断幕の設置

大口高校の新しいPR横断幕を、元気こころ館横に設置しました。

今回のテーマは「夢・実現への旅」で、青春18きっぷと青春充実きっぷを掛けており、JR切符を模したデザインに仕上げました。中学生の皆さん、大口高校で夢を実現しませんか。



5年ぶり! 体育祭開催

日 時：令和6年9月7日（土）
【開会式】8:45 【閉会式】12:30
会 場：大口高校グラウンド
駐車場：北門から入って右側に設定

「大口高校ふるさと歴史講座」 要旨その2



【第2回目】 7月1日(月)18:00~20:00

講 師：新名 一仁 先生
(南九州大学非常勤講師)

鹿児島大学法文学部人文学科を卒業後、広島大学大学院文学研究科博士課程に進み単位修得退学。博士(文学、東北大学)。南北朝時代から戦国時代にかけての島津氏、南九州政治史を研究。『室町期島津氏領国の政治構造』他著書多数。『菱刈町郷土誌 改訂版』の中世編も執筆。



テーマ：「新納忠元と大口ーなぜ島津四兄弟から信頼されたのか？」

私は、戦国時代の島津氏と南九州について研究を続けてきました。特に、島津義久と義弘の兄弟に着目し、豊臣政権との関係を踏まえ、いかにして勢力拡大に努めてきたかということを中心にしましたのが、『「不屈の両殿」島津義久・義弘』です。本日のテーマである新納忠元につきましては、合併前の菱刈町が平成19年に刊行した『菱刈町郷土誌』の中世編を担当させていただいた際に、改めて史料の読み直しや研究を行いました。その際、地元の皆様方には大変お世話になりましたので、本日はお礼の気持ちを込めてお話をさせていただきます。

まず、新納忠元の出自について見てみます。忠元は大永6(1526)年に父祐久の嫡子として志布志城で生まれますが、新納氏の嫡流ではなく傍系に当たります。忠元12歳の時、その志布志城が落城し、父に連れられ田布施(現南さつま市金峰町)に移り、島津忠良・貴久に仕えます。19歳で初陣し鎧疵を負いながらも敵将の首を獲る活躍を見せました。貴久・義久・義弘に従い三州統一、さらには九州統一に向けての各戦場で奮闘します。その後、豊臣秀吉の九州平定により島津氏は南九州に押し込められますが、秀吉への拝謁と両者の駆け引きの様子については、第4回目の講座で新東先生が詳しく紹介されると思いますのでここでは省略いたします。

その後、豊臣政権側は忠元を国元の留守居責任者と認識し、御朱印衆(秀吉から直接所領を朱印状で与えられる重臣)と同格の扱いをしています。晩年は、庄内の乱では74歳の高齢で出陣し、山田城攻めでは塵取り(屋根のない輿)に乗って指揮を執り、見事落城させました。その猛将新納忠元は、慶長15(1610)年に大口の地で85歳の生涯を閉じました。



【第3回目】 7月3日(水)18:00~20:00

講 師：日高 勝博 先生(霧島高等学校教頭)

鹿児島大学法文学部人文学科を卒業。鹿児島県立高校の日本史教師として、赴任した学校で生徒たちと一緒に地域の歴史を調査・研究し、その成果を『鹿児島史学』等に発表。県埋蔵文化財センターの文化財主事も歴任。

なお、新名先生も日高先生も吉満校長の鹿児島大学日本史教室の後輩ということで、忙しい公務の中、快く講師を引き受けてくださいました。



テーマ：「中世伊佐の政治と社会」

私は、小学校の頃は父の仕事の関係で大口市の曾木に住んでおり、またこの4月までは伊佐農林高等学校の教頭をしていたため、伊佐の地には愛着があると同時に伊佐の歴史についても関心を持っているところです。今回の講座は、「中世伊佐の政治と社会」というテーマで、新納忠元が登場する前(具体的には鎌倉時代)の伊佐地方がどのような状況であったかを、残された数少ない史料を基に紹介していきたいと思っています。

古代においては、おおよそ大口に当たる地域は牛屎院と呼ばれ、菱刈に当たる地域は菱刈院とされていました。牛屎院を治めたのは山城国太秦を拠点とした牛屎氏でした。天承2(1132)年に菱刈院から分出されたとされ、島津荘の寄郡(年貢は国衙と荘園領主に納め、雑公事は荘園領主に納める特殊な形態の荘園)でした。ちなみに、牛屎という地名は天正年間に牛山と改称され、その後大口と改称されます。菱刈院を治める菱刈氏は、平安末期に下向してきた菱刈重妙に始まる豪族で、蒙古襲来の折には石築地の築造も担っています。「焼酎神社」として有名な郡山八幡神社を勧請したのもこの菱刈重妙です。

建久8(1197)年に鎌倉幕府の命令で薩摩・大隅・日向の3か国の荘園や公領の田数や領主名を記した土地台帳が作成されました。「建久図田帳」と呼ばれるもので、当時の土地所有形態がよく分かり、当時の牛屎院と菱刈院の状況も知ることができます。平安末期には牛屎氏の家来だった篠原氏が台頭し、牛屎氏と名田争いを展開しています。菱刈氏から曾木氏が分立し、領地を巡る相論を行っています。

牛屎氏、菱刈氏、篠原氏、曾木氏といった在地領主(郡司層)が、荘園領主の藤原氏(近衛家)や将軍の源頼朝、有力御家人の北条氏と関係を築きながら領土拡大を目指し相論を繰り広げていたのが鎌倉時代の伊佐の状況でした。



※ 新納忠元が茶の湯も嗜んだ文化人だったことに因んで、講座開始前に大口高校茶道部の生徒たちが抹茶を振る舞いました。お菓子は、もちろん「大口高校米(マイ)クッキー」。雅な世界に浸った受講者たちは、気持ちを切り替えて講座に臨みました。